

エンジニアパーク

# Engineer Ring Park

北海道生まれ、北海道育ちの42歳、札幌の建設コンサルタント会社に勤め、もうすぐ20年目になります。技術士資格は3年前に取得しました。

先日、妻が電話で友人(ママ友)と話しているのを傍で聞いていると、なにやら旦那の仕事について話をしていたようです。その会話で、『仕事は何をしているか?』という質問があったのだと思いますが、予想外にも妻は『よくわかんないんだよねえ。』と一言。

私は、建設コンサルタントに勤め、道路分野の仕事をしていますが、道路整備計画をはじめとして、ある時は交通安全対策検討で交通事故現場の調査、またある時はロードキル(野生動物事故)対策でエゾシカを追いかけ、時には道路防災設備設計やICTを活用した道路情報システムの計画・設計などに多岐の業務に携わっています。こんなことから妻の発言が飛び出したのも無理はないかもしれません。

今後は技術士資格を活かし、道路分野で更に幅広い仕事に取り組んでいきたいと思っておりますが、『よくわかんないんだよねえ。』に拍車がかかります。また、子供がもうすぐ小学生になりますが、お父さんの仕事は?と学校で聞かれたときに、妻と同じように『よくわかんないんだよねえ』となってしまうと、技術士の名が廃ります。これは、なんとかしなければなりません! 対策が必要です。

正直、今はまだ良い具体策は見つかりませんが、いつの日か、近い将来、「北海道の道路を利用するみんなが安心と感じてもらうための仕事をしているんだよ。」と胸を張って言えるよう、これからの一層の研鑽が必要と感じています。

## 星野 洋 (ほしの ひろし)

●建設部門(道路)

**勤務先**

株式会社シー・イー・サービス  
企画部・システム開発部



→次号は、椿 直樹さん(建設部門)

私にとって今年は、社会人として20年目となる節目の年となります。高校時代から地形や地質などの自然科学に対する漠然とした興味があり、そのため、大学では地質学部を目指しました。しかし、成績が不良のため希望の学部に進学できず、結果的に工学部への進学、卒業となりました。

その後、卒業時に就職先を選ぶとき、やはり地形や地質への興味は断ち切れず、地質調査部門を持つ現在の会社の門を叩き、以来19年間、ほぼ一貫して建設コンサルタントとして地質調査を主とする業務に携わってきております。経験した調査対象は河川、道路、トンネル、橋梁、ダム、地すべりなどです。対象地域は道内を主としておりますが、一部で道外の業務に携わる機会もありました。

技術士は2009年(平成21年)3月に、応用理学部門(地質)に合格しました。本年度で取得後7年目となります。入社当時は、技術士の存在すら知らず、しばらくたってからその存在を知ったものの、仕事で会う技術士の方々をみて、その経験の豊かさと、技術力の高さに感心、尊敬しつつ、自分には当分縁のない資格であると思っておりました。数年後、受験資格が得られたのを機会に受験を開始しましたが、最初の3年間の試験ではオールCの結果が続き、どうすれば合格するのか途方に暮れました。

その後、何回か受験を重ね何とか合格に至りましたが、技術士として6年間を過ごした現在でも、いまだ技術、経験の不足を痛感しつつ日々の業務を遂行しております。今後も、社会人になった当時に自分が技術士に対して持っていた感心、尊敬の対象にふさわしい技術士となるよう、常に自分の未熟さを意識し、資質の向上に向け日々努力を積み重ねていきたいと考えております。

## 大山 朝之 (おおやま ともゆき)

●応用理学部門

**勤務先**

株式会社レアックス



→次号は、長岡大輔さん(応用理学、建設部門)